

TEATRO COMUNALE DI BOLOGNA



オペラ発祥の国イタリア屈指の名門

4年ぶり7度目の来日

ボローニャ歌劇場

ベッリーニ

ノルマ

【全2幕】

演奏:ボローニャ歌劇場管弦楽団/合唱団

演出:ステファニア・ボンファデッリ

原語上演・日本語字幕付



ノルマ
フランチェスカ・ドット



ポリオーネ
ラモン・バルガス



アダルジーザ
脇園 彩



オロヴェーゾ
アンドレア・コンチェッティ



指揮:ファブリツィオ・マリア・
カルミネーティ

2023

11/11 (土) 15:00開演

滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール大ホール

●料金(全席指定・税込)

S席 ¥29,000 (¥28,000) A席 ¥23,000 (¥22,000) B席 ¥19,000 (¥18,000)

C席 ¥16,000 D席 ¥12,000 SS席 ¥34,000 (¥33,000)

※()内はびわ湖ホール友の会会員料金/びわ湖ホールのみのお取り扱い。

※発売初日に限り、1回のご予約・ご購入は合計4枚まで。 ※未就学児入場不可。

主催:コンサート・ドアーズ 共催:滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

運営協力:キョードー 後援:イタリア大使館

●チケット発売日

2023年

7月7日(金)10時~(びわ湖ホール友の会優先発売)/7月9日(日)10:00~(一般発売)

●チケット取扱い

びわ湖ホールチケットセンター

TEL: 077-523-7136 (10:00~19:00火曜日休館・休日の場合翌日、8/13~18は休館)

<https://www.biwako-hall.or.jp/>

チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード:244-265)

ローソンチケット <https://l-tike.com/> (Lコード:00000)

イープラス <https://eplus.jp/>

CNプレイガイド 0570-08-9999 (オペレーター対応 10:00~18:00)

<https://www.cnplayguide.com/>

●お問い合わせ: キョードーインフォメーション(平日10:00~18:00)

※やむを得ない事情により演奏者が変更になる場合がございます。 ※チケット購入後のキャンセル・変更はできません。

ボローニャ歌劇場

ベッリーニ
ノルマドット、脇園、バルガス、最高の歌手が導く崇高さ
イタリア・オペラの最高傑作《ノルマ》の愉悅!

ベッリーニの最高傑作であるばかりか、イタリア・オペラのなかでも抜きん出た傑作と評されるのが《ノルマ》である。

人々の精神的支柱である巫女なのに、敵の男を愛してしまったがゆえの悲劇。美しさのなかに力強さも備えた格調高い音楽をとおして、作曲家はノルマの葛藤をみごとに描く。また葛藤は生々しいのに、音楽の力によってドラマは崇高でさえある。

それだけに、ノルマ役はソプラノの役のなかでもとくに負担が重く、あらゆる表現が要求されるが、フランチェスカ・ドットを得て成功は約束された。3月にドットが歌うノルマをボローニャで聴いたが、コントロールが行き届いた知的な歌唱で、声の色彩を自在に操って感情の変化を縦横に表した。この役に欠かせない品位も申し分ない。

そのときアダルジーザを歌った脇園彩も、レガートが磨き抜かれた完璧な歌唱をとおして感情を鮮やかに描き、ドットとの声の相性も抜群だった。そこに品格で負けないラモン・バルガスのポリオーネが加わり、ベルカントの名匠、ファブリツィオ・マリア・カルミナーティが指揮する。崇高な悲劇にだれもが酔うはずだ。

香原斗志(オペラ評論家)

フランチェスカ・ドット(ソプラノ)

北伊トレヴィーゾで生まれ、古典人文科学を学んだのちフルート、声楽の学位を修得。2011年、ヴェネツィアのフェニーチェ劇場に《ラ・ボエーム》のムゼッタでデビューして以来、知性に裏づけられた歌唱で主要劇場での活躍はめざましい。2018年にローマ歌劇場の日本公演で歌った《椿姫》の名唱も記憶に新しい。

ラモン・バルガス(テノール)

メキシコシティで生まれ、1992年にMETでバヴァロッチェの代役として《ルチア》のエドガルドを歌って以来、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座など世界の主要なオペラシーンを席巻。これまでに50を超える役を歌ってきた。端正でエレガントな歌唱はオペラ《ノルマ》の崇高さにふさわしい。

脇園 彩(メゾソプラノ)

東京藝大院修了後に渡伊。パルマ国立音楽院、ペーザロのロッシーニ・アカデミーを得てミラノ・スカラ座アカデミー修了。以後、イタリアの主要劇場を中心にヒロインを数多く歌う。ロッシーニが得意だが、最近はレガートを磨いてベッリーニなども習得。すでにアダルジーザはスペインやボローニャで大成功を収めている。

アンドレア・コンチェッティ(バス)

中部イタリアのマルケ州で生まれ、ペーザロのロッシーニ音楽院を卒業。ベルカント・オペラを歌う揺るぎない技巧を修得し、キャリア初期にミラノ・スカラ座に主役デビュー。その後は世界の主要な劇場や音楽祭への出演を重ねてきた。故C.アッパードとのコラボは長きにわたり、R.ムーティらの信頼も厚い。

ファブリツィオ・マリア・カルミナーティ(指揮)

ドニゼッティの生地ベルガモで1958年に生まれ、若くしてトリノ王立劇場に入り、92年に《ラ・ボエーム》で指揮デビュー。これまで主要劇場で60を超えるオペラを指揮し、とりわけベッリーニをはじめとするベルカント・オペラで高い評価を受ける。2000年からカタニアのベッリーニ劇場の芸術監督も務める。

(プロフィール紹介:香原斗志)